

金沢大学法学類 2023 年度「法学概論（基礎法学編）」小テスト解答

5 月 31 日 17 時 0 分～17 時 45 分

出題：足立英彦

1. 次の選択肢のうち、誤っているものを 2 つ選べ。(6 点)

- (a) 法律学は、現在通用している法律および過去に通用していた法律を主な対象とする学問である。
- (b) 実体法を具体的事件に適用する手続きに関する法律を手続法と呼ぶ。
- (c) 法理学は法律学の一分野である。
- (d) 法理学は、法及び法学の普遍的な構造や理念を探求する学問分野である。
- (e) 国会法は実質的意味の憲法の一例である。

解答 (a), (c)

解説 (a) 法律学の主要な対象は、現在通用している法律である。(c) 法理学は基礎法学の一分野である。2 つ正しく選択している場合のみ正解とした（以下も同様）。

2. 公法と私法の区別について説明する次の選択肢から、誤っているものを 1 つ選べ。(4 点)

- (a) 法が保護する利益に着目し、社会の利益を保護する法を公法、私人の利益を保護する法を私法とする分類がある。
- (b) 規律対象の主体（当事者）に着目し、国や公共団体が一方又は双方の当事者である場合の両者間の関係を規律する法を公法、私人間の関係を規律する法を私法とする区別がある。
- (c) 規律対象の主体（当事者）の関係に着目し、権限を有する者とそれに従う者との関係を規律する法を公法、そうでない者同士の関係を規律する法を私法とする区別がある。
- (d) 規律対象の主体（当事者）と関係に着目し、国や公共団体が一方又は双方の当事者であるか、一方の国や公共団体が他方に対して権限をもつ場合の両当事者の関係を規律する法を公法、それ以外の方を私法とする区分がある。

解答 (d)

解説 (d) 「・・・当事者であるか、」ではなく「・・・当事者であり、かつ」。

3. 次の選択肢のうち、誤っているものを 2 つ選べ。(6 点)

- (a) 社会法の典型例は労働法と社会保障法である。
- (b) 法理学は法を社会現象の一つとしてとらえ、法を因果的、実証的に研究する学

問である。

(c) 民事法とは、民事裁判の基準となる私法とその手続法の総称である。

(d) 六法とは、憲法、民法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法、行政法の6法典のことである。

解答 (b), (d)

解説 (b) 法理学は、法及び法学の普遍的な構造や理念を探究する学問分野である。

(d) 行政法でなく商法。

4. 次の選択肢のうち、誤っているものを2つ選べ。(6点)

(a) 会社法(平成17法86)は、平成17年に86番目に施行された法律である。

(b) 法の施行に関する通則法によれば、法律は公布の日から起算して20日を経過した日から施行される。

(c) 法令の公布は天皇が行う。

(d) 法令の公布方法について定めた法令はなく、慣例によって国会の掲示板への掲示でもって公布されたことになる。

解答 (a), (d)

解説 (a) 施行でなく公布。(d) 官報への掲載。

5. 次の選択肢のうち、誤っているものを1つ選べ。(4点)

(a) 憲法の正文に項番号は振られていない。

(b) 一部改正法律によって項を削除する場合、後続の項番号を繰り上げる。

(c) 一部改正法律によって条文を削除する場合、あとに続く条文番号を繰り上げる。

(d) 各号は文ではなく、名詞または名詞句で列挙される。

(e) 条または項が二文で構成されている場合、一文目を前段、二文目を後段と呼ぶ。

解答 (c)

解説 (c) 繰り上げない。

6. 次の選択肢のうち、誤っているものを1つ選べ。(4点)

(a) 喫茶店のメニューで「コーヒー又は紅茶」を選べると書かれている場合、通常は、コーヒーと紅茶のいずれか一つだけを選べることを意味している。

(b) 「A、B並びにC及びD」は、Aと「B並びにC」とDとを並列的につないでいる。

(c) 第1項には「1」という項番号を付けない。

(d) 「A又はB若しくはC」は、「A又はB」とCとを選択的につないでいる。

解答 (d)

解説 (d) A と「B 若しくは C」を選択的につないでいる。

解説 (2024 年 4 月 27 日追記) (b) も誤りです。正しくは、「A と B と「C 及び D」を並列的につないでいる」です。

7. 次の選択肢のうち、誤っているものを 2 つ選べ。(6 点)

(a) 衆議院規則や参議院規則は国会が定める法律である。

(b) 日本国憲法は天皇が制定した。

(c) 政令は内閣が定める。

(d) 法令審査権はすべての裁判所に認められている。

(e) ある法が他の方に比べて「特別」であるとは、前者の規律対象が後者よりも外延的な意味で多いということである。

解答 (a), (e)

解説 (a) 衆議院規則は衆議院、参議院規則は参議院が定める。(e) 少ない。

8. 制定法の優先関係について述べた次の文の空白を埋めよ。(各 2 点、計 8 点)

(a) 複数の制定法に上下関係があれば、(1) の制定法は (2) の制定法より優先する。

(b) 二つの制定法に上下関係がなく、さらに両者が特別法と一般法の関係にある場合は、(3) が優先する。

(c) 二つの制定法に上下関係がなく、特別法と一般法の関係にもない場合は、(4) が前法に優先する。

解答 1 上位 or 上位法 or 上 2 下位 or 下位法 or 下 3 特別法 4 後法

9. 次の選択肢のうち、誤っているものを 1 つ選べ。(4 点)

(a) 判例の法的効力を明示する法律はない。

(b) 人身売買の慣習は法の適用に関する通則法第 3 条に基づき無効である。

(c) 商慣習法は商法よりも優先する。

(d) 民法 92 条により、当事者が従う意思を有していると認められる慣習は、任意法規よりも優先する。

解答 (c)

解説 (c) 商法 1 条 2 項により、商法に定めがない事項についてのみ商慣習が法源となる。

10. 次の選択肢のうち、誤っているものを 2 つ選べ。(6 点)

- (a) ローマ法を継受した地域をロマンス法域と呼ぶ。
- (b) 日本は大陸ヨーロッパ法域に属する。
- (c) 法と事実に基づき、その事実についての法的判断を論証することを法的論証または法的推論と呼ぶ。
- (d) 前提がすべて真ならば結論が必ず真になるような推論のことを健全な推論と呼ぶ。
- (e) 検察官が主張する事実について少しでも疑問が残るようであれば、裁判官はその事実についての文の真理性を否定しなければならない。

解答 (a), (d)

解説 (a) 大陸ヨーロッパ法域 (d) 妥当な推論

11. 脳死の者を殺した者に対して刑法 199 条により 5 年以上の刑を科すことを求める検察官は、どのような文を推論に追加しなければならないか？ 追加すべき文を空欄に書きなさい。(6 点)

解答 「脳死の人を殺した者は、人を殺した者である。」

解説 「脳死者は人である」等でも可。

12. 次の選択肢のうち、誤っているものを一つ選べ。(4 点)

- (a) 誰もが同意する語の用法に基づく法解釈を必然的な法解釈と呼ぶ。
- (b) 誰も同意しない語の用法に基づく法解釈を不可能な法解釈と呼ぶ。
- (c) 必然的かつ不可能な語の用法を偶然的な語の用法と呼ぶ。
- (d) 偶然的な法解釈を採用したい場合は、「現在の実際の語句の用法に基づく論証」以外の論証方法がないかを検討する。

解答 (c)

解説 (c) 必然的でなくかつ不可能でもない用法を偶然的な用法という。

13. 次の選択肢のうち、誤っているものを 2 つ選べ。(6 点)

- (a) 立法者の意図を証明することは多くの場合に困難である。
- (b) 要件と効果から構成される法を「法準則」または「法的ルール」と呼ぶ。
- (c) 欠缺補充の主要な方法は類推である。
- (d) 類推（または類推推論）は法解釈の一種である。
- (e) 法準則（法的ルール）自体には価値がなく、何らかの目的を達成するための手段になるという、道具的な価値しかない。

解答 (d), (e)

解説 (d) 類推は不可能な語の用法に基づく法形成であり、法解釈ではない。(e) 法準則に従って判断することで「等しき者を等しく扱う」という平等原則を実現できるので、法準則自体にも価値がある。

14. 本学敷地内は指定の場所を除き禁煙である。花火に関する大学の規則はないと仮定して、上記指定場所以外で花火をすることについて、

- ・禁煙の規程の類推に基づき禁止されている
- ・禁煙の規程からの類推はできないので禁止されていない（許されている）

の両方の主張をそれぞれ論証しなさい。(8点)

解答例

- 花火は禁止されている：禁煙の規程の目的は、学内の火災を予防するためであり、花火は火災の原因となりうるという点で喫煙と似ているので、花火も禁止されていると考えるべきである。
- 花火は禁止されていない：禁煙の規程の目的は、副流煙によって非喫煙者の健康が害されることを防ぐためである。花火の煙は、タバコと同様には人の健康を害さないという点で、タバコの煙と似ていない。したがって花火は禁止されていないと考えるべきである。

解説 禁煙の規程の目的を考え、その目的に照らして喫煙と花火（をすること）が似ているか似ていないかを論じれば良い。「禁煙」は煙を出すことを禁じており、花火も煙を出すという点では同じなので、花火をする事も禁止されている、という趣旨の答案が多かったが、これは不正解。なぜ「煙を出す」という特徴に着目するかを説明することが必要で、そのためには禁煙規程の目的（たとえば煙の匂いは大学の環境を悪くするのでそれを防止することが目的）に言及する必要がある。

15. この授業（法学概論基礎法学編）の感想（納得した点、疑問に思った点など）や改善すべき点などを自由に記入してください。(22点)

回答 マイクの音が小さい、または声がマイクに入っていないくて聞き取りにくかった、という意見が多数ありました。また、照明の光があつてスクリーンが見にくかった、Zoomの準備に時間がかかりすぎ、といったご意見もありました。今後の授業では気をつけたいと思います。

なお、この小テストは教室でWebClassで実施しました。平均点が予想より低くなったため、2つの選択肢を選ぶ問題の配点を当初予定の8点から6点に減らし、この自由記述の問を22点に増やしました。

以上

参考情報（2023年6月8日現在）

- 小テスト結果

履修登録数	小テスト受験者数	小テスト平均点
158	157	72.6

- 小テスト上位得点者: 100点1名、96点3名、94点2名